

学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	新潟市立浜浦小学校
校長氏名	齋藤 純一

1 学校紹介

当校は、これまでも毎年授業研修会を開催し、市内の各校に授業づくりの在り方を発信し続けてきた。令和2年度のコロナ禍においても、オンラインでの授業研修会を開催し、授業動画を配信したり、全国区の講師を招聘したりすることで、自校の授業改善・学力向上にとどまらず、新潟市内各校の授業改善にも少なからず寄与してきたと考えている。

また、2年目となる今年度は、國學院大學 田村学教授を招聘し、実際の授業を基に深い学びやその評価の在り方について御指導をいただくこととした。「深い学びとは何か」から研究を始め、その姿をどう見取るか、また意図的に深い学びに到達させるにはどう授業を構想すればよいのかというように研究を系統的に積み重ねてきた。新たな「新潟市の授業づくり」の推進において、着実な歩みを続けている。

2 実践テーマ

＜テーマ＞	ギガ・スクール構想下での資質・能力をはぐくむ授業づくりの推進 ～ 新たな「新潟市の授業づくり」の推進 ～
-------	---

【テーマ設定の理由】

令和3年度から、全市的にギガ・スクール構想に基づく教育が本格的に始まった。一人一台端末を活用することにより、授業の在り方も大きく変わり始めている。それを見据え、学校支援課からは、「アウトプット」を核とした授業づくりが示された。この新たな「新潟市の授業づくり」を学校現場に浸透させるには、行政研修の充実もちろんあるが、学校現場での具体的な授業実践が不可欠である。そこで、当校が「アウトプット」を授業の中心に据えた授業づくりに取り組み、自校の子どもたちに確かな学力を育成するとともに、市内各校へもその授業実践を伝達していきたいと考えた。

3 実践内容

○ 新たな「新潟市の授業づくり」に基づく授業実践の蓄積

一人一台端末を活用したアウトプットを中核とした授業の在り方について、提案授業や校内公開授業研修を行ったり、学年会等で実践を紹介し合ったりし、職員間の共通理解を図った。その後も、授業実践を積み重ね、具体的な授業展開の在り方を蓄積した。

○ 授業研修会を開催し、新潟市内の学校に広く周知する

授業実践で導かれた知見に基づいて、提案授業を授業研修で行った。新潟市内の学校に広く授業研修会の案内を配付し、新潟市あるいは市外・県外からも多数の参加者を得た。研修会では、具体的な授業提案に基づいて、より良い授業展開の在り方について意見交換をするとともに、指導者から全国的な動向を踏まえた指導を受けることができた。

4 成果と課題

これまでの着実な取組により、新たな「新潟市の授業づくり」を推進してきた。全国学力・学習状況調査の正答率を見ると、国語 81%、算数 75%、理科 75%であり、全てで全国・県・市の平均を大きく上回った。浜浦小の授業づくりにおける、子どもの課題意識を高めた「問い」の発生や、アウトプットの1つである「振り返り作文」の着実な実践により、児童の学力に向上的な変容が見られたと言える。



1, 2年目を通して、校外に開く授業研修会を行っている。毎回、多くの参会者から肯定的な意見が寄せられている。10月に行った研修会でも、「タブレットを用いてグループで意見交換をしたら、更に多くの児童が発言する機会ができ、協働的な学びにつながると感じた。」「時間を掛けて遠方から来たが、とても成果となった。大満足である。」などほぼ全員から肯定的な意見を得た。

今後は、これまでの研究で得られた「学びの深まり」に至る授業づくりを、国語・算数の別領域で検証する、あるいは、国語・算数以外の教科で検証するなど、研究範囲を広げていく必要がある。また、「学びの深まり」に繋がる個別最適な学びと協働的な学びの在り方、そのための授業や単元構成について研究を進めていく必要がある。